

資料室


[HOME](#) | [資料室](#) | [労働組合](#) | [教育カリキュラム](#) | [高野房太郎伝 \(6\)](#)
[労働組合](#)[労働者福祉・共済](#)[一般教養](#)[組織活動](#)[組織運営と法律](#)[労働安全衛生](#)[経営対策活動](#)[教育・宣伝活動](#)[労働時間をめぐる諸問題](#)[教育活動](#)[選挙活動](#)[組合組織（公務員）](#)[教育カリキュラム](#)[▶ キーワード検索はこちら](#)

高野房太郎伝 (6)

1894年、房太郎はアパラチア山中の田舎町からアメリカ労働総同盟ゴンパース会長に宛てて手紙を出していた。ゴンパース会長からの返事が届き、「手紙だけでは意を尽くせないから是非ニューヨークに来るように」と勧められる。

また、創刊直後のアメリカ労働総同盟機関誌の見本誌が送られてくると同時に、同誌に日本の労働者階級の状態について寄稿するよう依頼があった。

ゴンパースは、この極東の島国から来た若者にひとかたならぬ興味をいだいたようである。



房太郎は3年契約でアメリカ海軍に入隊することとなり、軍艦出航までの待機期間を利用してゴンパース会長に会った。

ゴンパースは初対面の房太郎を気に入り、彼をアメリカ総同盟の日本担当オルグとして任命する。

二人が顔を合わせてから30年近くも後に執筆された『自伝』で、ゴンパースは次のように回想している。

「私は1890年代に、高野房太郎と会った。

彼は労働運動に非常に興味をもつようになり、わざわざ私の事務所にやって来て、日本の労働階級に役立つと思われるアメリカの労働組合運動に関する情報を私に求めた。

私は彼と数回会って話してみても、彼の才能と真剣さに打たれた。」

ゴンパース会長と面識を得た後、房太郎は軍艦マチス号の乗組員として東方へ向かい出航する。

日清戦争直後のことであった。

彼は働きながら世界各地を回れることや、あわよくば日本に帰国する船賃を無料にすることを考えたのかもしれない。

事実1896年に日本に寄港した折、3年契約を待たずマチス号から脱走して日本帰国を果たしている。

乗船中も彼はゴンパースとの文通を続け、機関誌にも英文論文を何本も寄稿して、労働運動への思いを温めていた。

(つづく)

資料に関する解説やサイト内ブックマーク、簡単なクイズもできる無料会員登録のお申し込みはこちらになります。

Worker's Library 会員登録

お申し込みはこちらです。

>>一覧へ戻る

[▶ サイトマップ](#) [▶ このサイトについて](#) [▶ 個人情報保護の取組みについて](#)

[▶ ページTOPへ](#)

[TOP page](#)

[資料室](#)

[イベント情報](#)

[講師を探す](#)

[Worker's広場](#)

[関連リンク](#)

Worker's Library 静岡で働く人のための資料閲覧サイト
JAPANESE TRADE UNION COFEDERATION DB SITE **【ワーカーズ・ライブラリー】**

Copyright© WORKER'S LIBRARY All rights reserved.